2015.07
Yoshimura
Report
Vol.01

浦安市議会議員 吉村 啓治 議会報告
http://d-power.jp/

「できない」を 「できる」に。

三世代同居・近居助成とシニアの社会参加促進を求めて。

6月議会 一般質問

私にとって、初の定例会である6月議会が終了しました。市から提出された議案は、補正予算2件、条例改正1件、管理者指定1件、契約関連6件、人事案件4件、その他1件の計15件。全て原案通りの議決となりました。23日には、一般質問で初登壇し、「シニアの安心」と「シニアの活躍」をテーマに、選挙で訴えた政策を市当局に提言し、考えを聞きました。抜粋で報告します。

●○●○● 若い世代の定住促進と ●○●○● シニアの安心について

一般質問は、市民の皆さまにお約束してきた政策を、市当局に提言する重要な機会であり、ヒヤリング等のプロセスも含め、議員と当局が議論を深かめる場です。議員にとっては、非常に重要な政策展開の機会といえます。

最初に選んだ質問のテーマは、「シニアの安心」。若い世代の定住促進にもつながる、三世代市内同居・近居助成について、当局の認識や、制度を導入する意向などを聞きました。

質問は、三世代同居・近居の現状、同居・近居のメリットに対する当局の認識、そして同居・近居助成制度導入の検討状況の三段階で行い、次のような回答を得ました。

まず、浦安市内の同居・近居は、**「国勢調査人口等基本集計の数字で、平成12年1888世帯（3・4%）が、平成22年には、1752世帯（2・5%）となり、減少傾向にある」**とのこと。また、同居のメリットについては、**「核家族化や地域とのつながりが希薄化している中で、三世代同居や近居に家族がいることは、子育てや介護の家庭内協力や支え合い、知識や経験の継承など、家族の絆が深められるものと認識している」**と答弁。更に、助成制度導入については、**「引き続き検討を進めていきたい」**というものでした。

今年3月に政府が閣議決定した「少子化社会対策大綱」にも、「三世代同居・近居の促進」が盛り込まれました。シニアの安心ばかりでなく、出生率の向上や子育て支援、介護予防、学力向上等、複合的な成果が見込まれる三世代同居・近居。生産人口の確保の上でも有効です。市の積極的取り組みを引き続き求めてまいります。

高齢者の２人に１人が自治会活動に参加。シニアは重要な地域活動の担い手。

●○●○● シニアが活躍できる ●○●○● 街づくりについて

2件目の質問は、シニアがもっと活躍できる仕組みづくりや、既存の仕組みの活性化・改革の必要性を提言するものです。今回は、「平成25年度浦安市高齢者等実態調査報告書」の調査結果を基に、シニアの社会参加促進に市がどのように取り組んでいるかを聞きました。

孤立防止策、ボランティア活動の参加促進、就労支援など、それぞれ現状の施策を確認。自治会活動にはシニアの約半数が参加、また、約４人に１人がボランティア活動に参加しているなど、成果は認められるものの、より一層の促進を求めました。また、就労支援に関しては、現状の「シルバー人材センター」の枠を超え、より経験や能力を活かすことができる施策の必要性を提言しました。

更に、「市民大学の活性化」について市の意欲を聞いたところ、**「地域に出て活躍いただくことを基本として、講座内容の拡大と充実を図っていきたい」**と前向きな答弁。学んだことを地域に還元する具体的な仕組みの拡充をあわせて要望しました。

「シニアの活躍」は、私のメインテーマ。今後も、継続的に取り組んでまいります。

吉村啓治プロフィール

1950年長野県木曾生まれ。約40年にわたる民間企業でのビジネス経験を活かし、「日本一シニアが輝く街・浦安」を実現するため市政に挑戦し、2015年初当選。都市経済常任委員会、会派「徳風会」所属。民主党千葉5区総支部幹事。

◇株式会社従心会倶楽部 シニアアドバイザー
◆NPO法人ゆい思い出工房 理事
◇一般社団法人希望日本投票者の会スペシャルパートナー

民主 PRESS MINSHU

都市・経済常任委員会

●○●○● 液状化対策事業増額補正について

市議会では、多岐にわたる市の事務を効率的に調査・審議するため、3つの常任委員会が設置されており、私は「都市・経済常任委員会」に所属しています。

委員会では、「平成27年度浦安市一般会計補正予算」の中から、復興交付金事業のうち災害復旧費が、当初予算の約300億円に、新たに約101億円という大幅な増額補正をする理由を確認しました。

東日本大震災では、中町・新町地区を中心に、甚大な液状化被害に見舞われました。

市では、次の震災に備える液状化対策として、市街地に「格子状地中壁」を構築する「市街地液状化対策事業」を設置。希望する地域へ「復旧交付金」を給付することにしていました。

当初、受付済みの14街区（2615戸）を対象に予算を組んでいたところ締め切り後更に、6地区（1488戸）の申し込みがあり、急遽の補正となったということでした。

都市・経済常任委員会は、補正予算を含め付託された7議案を満場一致で採択しました。

●○●○● 日の出南小学校通学路の信号要望

6月1日に発行した、臨時議会報告を日の出地区の新しい戸建て街区アイルズコーストにポスティングしていた際に、お声がけいただいた案件です。

声をかけてくださったのは、日の出南小学校に通学している児童のお母さん方。通学路となっている大江戸温泉物語浦安万華郷の交差点に、信号を付けてほしいとの要望でした。

信号がない日の出市街地周辺の通学路

早速、市の交通安全課に相談したところ「信号取り付け等の所管は千葉県警で、取り付けの可否は交通量により決定される。まだ、交通量が少ないので難しいかもしれない」との回答。→次いで浦安警察署へ。千葉県警には、すでに要望が出ているが、早期取り付けの計画ではないことを確認。『通学路の安全確保のため』という要望が、自治会等から提出されれば優先順位が早まる可能性があると聞く。→アイルズコーストには、まだ自治会がなく、浦安市立日の出南小学校を訪問。要望書提出について校長・教頭と協議。校長が小学校とPTA、並びに中学校とPTAの連携による要望書を取りまとめ、当局あてに提出することに。

要望書提出の時期を見計らい、矢崎堅太郎県会議員と共に、千葉県警を訪問し、見通しなどを確認してまいります。

引き続き経過を報告いたします。

市政相談報告

「街に役立ち、たくさんの笑顔に出会うこと」。これが、私が市政を志した原点。市民の方々が、困っていらっしゃることに対応する「市政相談」は、私にとって議会と並ぶ重要な「仕事」です。相談には、できるかぎり「すぐ動く」こと、そして、動いた結果を迅速にご報告することを心がけています。

以下、2つの相談案件の報告をさせていただきます。

市政相談は、お気軽に以下連絡先までお寄せください。

●○●○● 浦安市障がい者福祉センター「きらりあ」の●○●○● キャンドルの原料確保と活用機会拡大

「きらりあ」は公設民営の浦安市障がい者福祉センター。市内在住の障がい者やそのご家族を対象に、相談対応や生活支援に当たっています。

施設では、障がいのある方を対象に生活介護や就労支援を行っており、生活介護では、ロウソクの再生、布の手織、紙すきなどの作業を、就労支援では、クリーニング、菓子製造、その他の受注作業などしています。同施設に勤務する知人から、「一度見学に来てみませんか」と言われ、訪問した際、再生するロウソクの原料が不足気味との話を聞きました。

早速、都市環境部所管の浦安斎場長と打ち合わせをし、葬儀で使い切らないローソクを原料として確保するよう相談したところ、業者に通達を出していただき、回収ボックスが用意される。→市内最大手の東京葬祭を訪問し、回収を要望すると快くボックスを用意していただくことに。→その旨、きらりあの担当者に報告すると、原料不足だけが問題ではなく、売り先も少ないことが判明。→たまたま新聞報道で、夏至の「ライトダウン」協力イベントとして、「ホテルオークラ東京ベイ」が、キャンドルを使用していること。7月7日には、「七夕飾り」でキャンドルが再びともされると知る。→ホテルオークラ東京ベイに「きらりあ」の生活支援副主任とともに訪問。担当責任者に「きらりあ」の実情を説明→快く話に応じていただき、今年は、すでに手配済みで間に合わないものの、今後の購入を検討していただくことに。

七夕には、「きらりあ」のキャンドルサンプルを飾りの一部にしてくださる粋なはからいもありました。同ホテルは、リゾートホテル国内初のエコマーク取得。エコマークアワード2014プロダクト・オブザ・イヤーを受賞しています。

ホテルオークラ東京ベイのライトダウンイベント

七夕のライトダウンで活用された「きらりあ」のキャンドル

吉村啓治と浦安を語ろう!

市政相談や市政へのご意見・ご要望をお寄せください。

吉村直通ホットライン 090-1551-4450

メール yoshimura@d-power.jp **TEL&FAX** 047-353-4527

※電話に出られない時がありますが、伝言をお残しくだされば折り返します。

吉村啓治を応援してくださる元気なシニア募集中！若者も大歓迎!

※議会報告のポスティングや市政報告会の開催などが主な活動です。

連絡先を読み取れます。

「できない」を「できる」に。
吉村 啓治
浦安市議会議員